

夏秋キャベツ栽培におけるコナガおよびオオタバコガに対するコナガコンープラス（ロープ製剤）の効果

研究のねらい

孺恋村でのキャベツ生産を安定して続けていくために、コナガやオオタバコガに対する効果的な防除技術が求められています。そこで、薬剤抵抗性が発達しづらい上、環境への負荷が少ない性フェロモン剤であり、少ない労力での導入が期待できるコナガコンープラス（ロープ製剤）の実用性を検討しました。

技術の特徴

- 2～3ha以上の面積にコナガコンープラス（ロープ製剤）を40m/10a処理することで、コナガでは98.8～77.2%、オオタバコガでは100～97.7%の高い誘引阻害率を示しました。それにより、栽培期間中のコナガの生息虫数が低密度に抑制され、キャベツの被害を少なく抑えられました。
- コナガコンープラス（ロープ製剤）は、コナガコンープラス（チューブ製剤）と比べた場合、10aあたりの設置時間を、50%程度短縮できます。また、地表面から50cm程度の高さに製剤を設置することで、ブームスプレーヤでの農薬散布作業を妨げません。
- 本製剤は、フェロモン剤のため、除草剤の処理後に速やかに設置し、薬剤のローテーション散布と組み合わせる必要があります。
- 傾斜地ほ場では、有効成分が低い方へと流れてしまうため、十分な効果が得られない場合があります。傾斜上部では、製剤の設置割合を増やすなどの工夫が必要です。

今後の取り組み

コナガコンープラス（ロープ製剤）を導入することで、薬剤の散布回数を削減できるか検討します。

表1 コナガコンープラス（ロープ製剤）のコナガ及びオオタバコガに対する効果

試験年	設置面積	設置期間 (月・日)	対象害虫	誘引阻害率 (%)	被害度	
					設置区	無設置区
H28年	3.4ha	5.16-6.23	コナガ	98.8	0.6	1.1
			オオタバコガ	97.7		
H29年	3.4ha	5.22-6.27	コナガ	97.7	0.9	1.6
			オオタバコガ	100		
	2.1ha	7.3-8.4	コナガ	77.2	4.6	15.2
			オオタバコガ	100		

注1)誘引阻害率= (無設置区誘殺頭数-設置区誘殺頭数)×100/無設置誘殺頭数により算出した。
 注2)被害度はキャベツの被害をA(基)～E(無)の5段階で評価し、以下の式により算出した。
 被害度= (4A+3B+2C+1)/ (4×調査株数(n))×100 n=1675～1200
 注3)試験区ではコナガコンープラス(ロープ製剤)を40m/10a設置し、両区ともに現地慣行の農薬散布を行った。

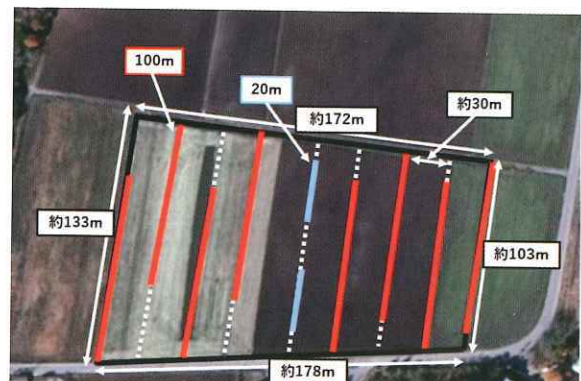


写真 設置例（上）とほ場への設置方法（下）

（執筆者：小暮 恵太）